

## 第92回福島大学経営協議会議事要録

1. 日 時 平成30年12月4日(火) 13時30分～15時20分

2. 場 所 福島大学事務局 第2会議室

3. 出席者

【学外委員】 斎藤美幸、清水潔、田原博人、富田孝志、林由美子、深澤秀樹  
渡邊博美

【学内委員】 中井勝己、中田スウラ、三浦浩喜、伊藤宏、若井祐次  
朝賀俊彦、鈴木典夫、佐野孝治、二見亮弘、生源寺眞一

〔オブザーバー〕 副学長：塩谷弘康、塘 忠顕

監 事：上井喜彦

4. 欠席者

【学外委員】 阿部正、川村栄司、櫻井泰典、三部吉久

5. 議 事

【審議事項】

(1) 役員の業績評価について

(2) 就業規則の一部改正について

【報告事項】

(1) 平成29年度に係る業務の実績に関する評価結果について

(2) うつくしまふくしま未来支援センター(FURE)活動状況報告について

(3) 環境放射能研究所(IEER)活動状況報告について

(4) その他

議事に先立ち、中井学長から挨拶があり、引き続き、福島大学における平成30年度中の組織再編等に係る経過措置に関する申合せ、第4条に基づき、今回の経営協議会より、生源寺食農学類準備室長を正式な委員とする旨、報告があった。

【確認事項】

第91回経営協議会議事要録を原案のとおり確認した。

【審議事項】

(1) 役員の業績評価について

中井学長から、資料1に基づき、平成30年12月期期末特別手当に係る役員の

業績評価について提案があった。

審議の結果、原案のとおり承認された。

(2) 就業規則の一部改正について

中田理事・副学長から、資料2に基づき、「福島大学における平成30年度中の組織再編等に係る経過措置に関する申合せ」により評議員に選出された「食農学類準備室」室長に対し、本給の特別調整額を支給するため、本給の特別調整額支給細則を改正することについて提案があった。

審議の結果、原案のとおり承認された。

【報告事項】

(1) 平成29年度に係る業務の実績に関する評価結果について

中田理事・副学長から、資料3に基づき、本学の評価結果として、4つの項目別評価がいずれも「順調」であること、戦略性が高く意欲的な目標・計画の取り組みとして3点が評価されたこと、全体評価結果を受け学長談話を公表したこと、自己評価委員会において今回の評価結果を総括するとともに今後の課題を示したこと等について説明があった。

(以下、はその議題に関する学外委員からの質問・意見、は大学側の回答等を表す。)

業務実績報告書を作成する際の業務負担が加重となり、教員の教育研究時間等に影響を及ぼしているのではないかと。報告書作成に伴う業務負担軽減の観点から、重要な要点だけ絞って記載してはどうか。

業務実績報告書の記載については、担当事務職員が原案を作成し、学内で確認作業を行っているため、教員への業務負担は配慮されている。また、内容及び分量については、文部科学省の事前確認を経て提出を行っている。

記載内容については、各学類で実施している項目等を整理しながら、特徴的な部分に重点をおき、明確・丁寧に報告しているが、いただいた意見についても参考としたい。

法人評価委員会のまとめた評価結果の特徴等のデータ資料は参考となるため、福島大学において、そのデータを最大限に活用していくことが重要である。

## (2) うつくしまふくしま未来支援センター(FURE)活動状況報告について

初澤うつくしまふくしま未来支援センター長から、資料4に基づき、各支援部門における上半期の活動内容及び事前に質問が出された 諸支援活動に伴う教育研究への波及効果、 活動経費における外部資金と学内予算の内訳、 環境放射能研究所の活動との関係性について説明があった。

FUREの活動自体大変意義があるが、本来行政が担うべき支援事業と大学として教育研究に還元していくことの両方を担っており、業務が非常に多くなっているように見受けられる。復興支援活動だけではなく、本来大学として担うべきこと、今後の方向性等について、大学の経営陣が主体となり判断していくことが重要ではないか。大学全体としてFUREを利活用し、教育研究に活かしてほしい。

プロジェクト事業等に学生を参加させていくことで、座学とは違った形で学べることも多く、学生自身がより成長できるため、プロジェクト事業に学生を参加させることを取り入れてほしい。また、今後、運営交付金で実施している事業と外部資金で実施している事業と分けた形で整理していくことで、資金面での課題等もみえてくるのではないか。

FUREの活動に対する多種多様な要望が寄せられるため、今後は各学類との協力関係を築き、連携を拡大していくことで、学生参加も含めた教育研究に活かしていきたい。

地域復興部門のアーカイブ関連活動において、学生が参画し具体的な作業を実施している活動事例はある。また、「ふくしま未来学」の取り組みについては、次年度から全学的な取り組みとして実施していくため、震災復興の取り組みを教育に活かしている形が作り上がってきている。

今後のFUREとCERAのあり方を検討するにあたり、FUREの活動を大学の教育研究に今後どのように活かしていけるのかを念頭において検討していきたい。

## (3) 環境放射能研究所(IER)活動状況報告について

塚田環境放射能研究所長から、資料5に基づき、上半期の活動報告として、 研究活動等の進捗状況、 大学院共生システム理工学研究科放射能学専攻(修士課程)設置認可に基づく具体化を含めた教育に関する活動状況、 研究成果の地域への情

報発信と交流活動等の取り組み内容について説明があった。

I E Rの長期計画の進捗状況の観点から、現時点での課題は何か。

共同利用・共同研究拠点化、教育機能を持たせるという点においては計画どおりであり、修士課程については積極的な広報活動を行っている。

共同研究を今後も活発に行い、I E Rの成果としてつなげてほしい。また、I E Rが、汚染水の問題等、福島県民の関心のあることを解説した情報を出す等、I E Rについて広く発信していくことで、福島県民の安心へつながる重要な役割の一つになるのではないか。また、修士課程については、I E Rの活動内容及び特徴を高校生等にも丁寧な情報提供を行い、幅広くアピールしていくことが必要である。

福島県民により分かりやすく情報を発信するため、今年度の成果報告会から、専門家向けと一般向けと対象を分けたスタイルに変更して開催する予定である。